

このころは、今と違って、学校にだせない家があつて、学校に行かない子供もいたのです。

清作も、学校に行かなくて、家で仕事の手伝いをした方がよいと考えました。しかし、シカは、清作にはどうしても学問が必要だと考えていました。そして、勉強のできる子だと信じていたので、いやがる清作を上げまし、学校に通わせました。

こうして、入学した清作だったので、友だちのいじ悪わるにも耐たえて、勉強にはげみました。

清作は、母の願いのとおり、尋常科卒業じんじょうかのころには、一等賞をもらうようになりしました。また、清作の勉強は、学校の教科だけでなく、難むかしい国語や漢文かんぶん英語までも、お寺のおしょうさんや駐在所ちゆうざいしよのじゅんさきさんなど学問のある人々から教えてもらいました。